



(別添)

2021年3月25日
NITE(ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
中国支所

News Release

3年連続、年100件以上発生 ～点検と情報確認で自転車の製品事故を防ぎましょう～

—中国5県版—

1. 自転車に伴う事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}では、自転車に伴う事故^{※2}は、中国地方5県(鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県)では2015年度から2020年度までの6年間に19件^{※3}ありました。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※2) 一般用自転車、スポーツ車、折りたたみ自転車、電動アシスト自転車等を含む。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(1) 中国5県の年度別 事故発生件数

表1に「年度別・県別」自転車に伴う事故発生件数を示します。

表1 「年度別・県別」自転車に伴う事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
2015年度						0
2016年度			1	1		2
2017年度				2	1	3
2018年度				1	2	3
2019年度		1	1	3		5
2020年度			4	2		6
合計	0	1	6	9	3	19

(2) 中国5県の被害状況別 事故発生件数

表2に「被害状況別・県別」自転車に伴う事故発生件数を示します。

表2 「被害状況別・県別」自転車に伴う事故発生件数

被害状況※4		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡						0
	重傷		1	6	3	1	11
	軽傷					1	1
物的被害	拡大被害				2	1	3
	製品破損				4		4
被害なし							0
合計		0	1	6	9	3	19

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 中国5県の事故原因区分別 事故発生件数

表3に「事故原因区分別・県別」自転車に伴う事故発生件数を示します。

表3 「事故原因区分別・県別」自転車に伴う事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの				3	1	4
B：製品及び使い方に問題があったもの						0
C：経年劣化によるもの						0
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの				3	1	4
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						0
E：誤使用や不注意によるもの						0
F：その他製品に起因しないもの			1			1
G：原因不明のもの（G3を除く）		1		1		2
H：調査中のもの			5	2	1	8
合計	0	1	6	9	3	19

2. 事故事例の概要について

中国5県で発生した自転車の主な事例を示します。

① 前ホークの亀裂や不具合に気づかないまま使用を続け、破断や転倒に至った事故。

2016年1月（岡山県、40歳代・男性、重傷）

【事故の内容】

自転車で走行中、当該製品の前ホークが破断し、転倒、負傷した。

【事故の原因】

自転車の前ホークは、アルミニウム合金製のホークステム根元部分で破断していたが、材質、寸法等の異常は認められず、前ホークが後方から前方に向かって破断していること及び破断の起点付近に塑性変形が認められることから、高い位置からの着地等により亀裂が発生した可能性が考えられる。

② 走行中にペダルが折れ、転倒した事故。

2018年5月（山口県、20歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

ネット通販で購入した折り畳み式自転車で走行中、ペダルが破損して転倒し、膝に軽傷を負った。

【事故の原因】

折り畳み式ペダル（ナイロン製）の製造時に一部のロットについて強度不足のペダルが混入したため、走行中にペダルが破損して転倒したものと推定される。

なお、事故品と同ロット及び別ロットのペダルについて、JIS試験（ペダル先端部の静的強度試験）を行った結果、同ロットは不適合、別ロットは適合したが、ガラス繊維の含有量等を調査したものの、強度不足の原因は特定できなかった。

③ 電動アシスト自転車用のバッテリーパックが焼損していた。

2019年8月（広島県、年齢・性別不明、製品破損）

【事故の内容】

電動アシスト自転車用のバッテリーパックが焼損していた。

【事故の原因】

事故品の電動アシスト自転車用のバッテリーパックは、電池セルの連結タブに絶縁シートを貼り付けた構造であったため、電池セルのカシメ部分に水分が溜まりやすくなり、カシメ部から水が浸入し、安全弁の腐食を引き起こすことで、水が更に浸入し電池セル内部の膨張及び微細な金属物質により内部短絡が発生したものと推定される。

3. 自転車の実験映像について

自転車に関連したの実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

(本件に関するお問い合わせ先)

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館
独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所
担当者：東瀬、折田
電話：082-211-0411

以上